

## 「雨中の激走！ ハイテンションバトル」



滑りやすい路面をコントロール #35

K 耐久東海シリーズが、26 台のエントリーを集めて、愛知県蒲郡市のスパ西浦モーターパークで開催された。

開幕戦で笑ったチーム、泣いたチームそれぞれの思いを抱いて臨むシーズン第2戦、どのチームがスタートダッシュに成功するか。

午前中の初夏のような太陽とはうって変わって、サーキットの上空は今にも降り出しそう雲が覆っている。

### 「KNN」クラス（軽NAのノーマルクラス）

開幕戦は昨年タイトルを争ったチームが表彰台に上り、その実力を披露したこのクラス、第2戦では9台ものエントリーとなり、激戦が予想される。

#### ■予選

予選クラストップは#35「JK レーシングユーロビート」でタイムはクラスの中で唯一10秒台を切る 1'09.989、今シーズンクラス最速だ。2番手には#14「ガレージイシヤマTTストウディ」1'10.339、シーズン自己ベストでつける。

3番手は初参加#410「RS TTCN Today」が 1'10.737、以下4番手#100「HAC もらいものビート」1'10.904 とこれまたシーズン自己ベスト、5番手は#58「ガッツアルト with セシカ」、1'11.342。6番手#34「JK ガチャピントウディ」1'11.719、7番手は#717「Team Jatsun アルト」、1'16.144。8番手#444「Team YKSR アルト」1'18.778、最後尾からスタートするのは初参加の#2「ぐっちちち RT もらいぼしアルト」、1'40.251。予選開始後赤旗中断が出たこともあって、一部のチームはタイムアタックが不十分だったようだが、全車無事にグリッドにつく。

#### ■序盤

スタート時はなんとか曇りだがいつまでもつのか不安な空模様。そんな時はドライで周回数を伸ばすとばかり、#35「JK レーシングユーロビート」がまずトップをキープ、義務ピットがオープンになる前は純粋なバトル。ここで意外な健闘を見せたのは#2「ぐっちちち RT もらいぼしアルト」、最下位から2位にジャンプアップ。3位走行は#14「ガレージイシヤマTTストウディ」、以下#100「HAC もらいものビート」、#410「RS TTCN Today」、#58「ガッツアルト with セシカ」、#34「JK ガチャピントウディ」、#444「Team YKSR アルト」と続き最後尾は#717「Team Jatsun アルト」で少し調子が上がってこないようだ。

#### ■中盤

1時間半過ぎとなると、ピットインが入り乱れて順位も変動#14「ガレージイシヤマTTストウディ」がトップに立ち、初参加の#410「RS TTCN Today」が追いかける。中団では序盤よりは少し下がったが#2「ぐっちちち RT もらいぼしアルト」が4位を走行、SOHCのHA11ながら上位勢と互角のバトルは注目。いよいよ本格的な降りになってきたコースを、各マシンが高い集中力で駆け抜ける。



ビート対決は惜しくも2位 #100



初参加で表彰台 #410



ランキングは首位をキープ #14

# Race Report

## ■終盤

2時間を過ぎ、#100「HAC もらいものビート」がトップで 83Lap、それを1周差で #35「JK レーシングユーロビート」が追うビート対決に。中団は#410「RS TTCN Today」と#14「ガレージイシヤマTTストウディ」、チャンピオンチームに新規参加が挑むトウディ対決。その下では#58「ガッツアルト with セシカ」、#2「ぐっちち RT もらいぼしアルト」などのアルト勢がそれぞれ混戦から抜け出そうとする、雨はますます降りきる、栄光のゴールはもう間もなくだ。

## ■最終結果

見事第2戦を飾ったのは#35「JK レーシングユーロビート」、途中トップを譲る場面もあったが終わってみれば予選1番手からの勝利は 2010 年以来の美酒。2位は#100「HAC もらいものビート」で、2 戦連続 2 位。3 位は初参加の#410「RS TTCN Today」が表彰台をゲット。

4 位は、#14「ガレージイシヤマTTストウディ」、一時はトップ走行など見せ場は充分つくりシリーズポイントも首位をキープ。5 位#2「ぐっちち RT もらいぼしアルト」も初参加ながら快走。6 位#444「Team YKSR アルト」、7 位#34「JK ガチャピン トウディ」。は#58「ガッツアルト with セシカ」と#717「Team Jatsun アルト」は義務ピット不足でポイント外。

## ■総評

午後の K 耐久は途中から降りだした雨のなか、緊張したドライビングを各チーム強いられたようだ。特にミッドシップのビートはリヤをふり出すシーンが見られた、そのなかで久しぶりの勝利を手にした#35「JK レーシングユーロビート」の走りは見事、開幕 2 戦を消化して、#14「ガレージイシヤマTTストウディ」と#100「HAC もらいものビート」が同点でトップだが、その後ろに#35「JK レーシングユーロビート」がつける展開、シリーズの流れを左右する次戦に注目。



序盤は 2 位を快走 #2



チーム名は頭文字 #444 は 6 位



ガチャピンは走るのだ #34



残念ながらポイント外 #58



こちらも残念 #717





逆転で今季初優勝 #25

## KNCクラス（軽NAのクロードクラス）

前戦優勝の新規格軽#81「パイオニア・ワコーズ・エッセ」は欠場したものの、他の有力チームはエントリー、5台による濃密なバトルが予想された。

### ■予選

予選でトップを獲得したのは昨年王者の#25「アカミネコマル 2 トウディ」、1'09.045。開幕戦では予選1番手からスタートしたもののトラブルで周回数が伸びずという結果に終わったが、今回は雪辱戦とばかり2戦連続予選トップで気を吐いた。2番手には#225「ぐっちち松本車体ビート」が1'11.210で付ける、3番手は開幕戦を欠場した#60「明智自動車スペシャルトウディ」が1'11.611と続き、4番手#66「IMWトウディ」1'12.563、5番手に#3「周平ビートご声援ありがとう号」1'35.101という順位。

### ■序盤

スタートからトップに躍り出たのは、#225「ぐっちち松本車体ビート」、それを#25「アカミネコマル 2 トウディ」が追う。3番手の#3「周平ビートご声援ありがとう号」現役高校生カートレーサー林周平選手は、学生らしく林間学校で出走せずとのことだが吉報を届けようと奮闘。4番手5番手は#60「明智自動車スペシャルトウディ」、#66「IMWトウディ」がともに豊富な経験を生かして上位進出を狙っている。

### ■中盤

1時間半を過ぎても首位は#225「ぐっちち松本車体ビート」で快調に周回を重ねる。2位争いには#60「明智自動車スペシャルトウディ」、#25「アカミネコマル 2 トウディ」、#66「IMWトウディ」のトウディ勢があがってきており、トップへの挑戦権をかける格好になる。#3「周平ビートご声援ありがとう号」はピットアウト時のホワイトラインカットやスピンなどに見舞われ、最下位へと大きく順位を落としてしまったが、まだまだ挽回の機会を狙う。

### ■終盤

2時間経過で依然トップは#225「ぐっちち松本車体ビート」だが、#25「アカミネコマル 2 トウディ」が猛追でその差は1Lap。さらに2Lap差で#60「明智自動車スペシャルトウディ」、さらに1Lap差で#66「IMWトウディ」と上位陣は混戦模様、5位は#3「周平ビートご声援ありがとう号」。

すっかり本降りとなったコースでは、KNNクラスと同様、ミッドシップのビートには厳しいコンディション。KNN比ベチューニングが可能なKNCはよりピーキーか？一方、コンディションが悪化する中追い上げるベテラン勢はさすがの一言。ただ、少しのミスが命取りには変わらない、極めて高いテンションが要求されるバトルは続く。



頂点まではあと一つ #225



さすがの表彰台ゲット #60

# Race Report

## ■最終結果

義務ピット閉鎖時間を過ぎてトップに立っていたのは、#25「アカミネコマル2トゥディ」で、ドライからウエットに変わる難しいコンディションのレースを制した。開幕戦が不本意な結果に終わっていたが、昨年のチャンピオンチームがいよいよ本領を発揮してきた。

2位には終盤でかわされたものの、参戦以来の自己最高位に入った#225「ぐっちち松本車体ビート」、開幕戦の初表彰台に続き、頂点まであと一つだ。3位は#60「明智自動車スペシャルトゥディ」で、昨年最終戦以来の表彰台でさすがの安定感。4位#66「IMWTトゥディ」接触等がありながらも、しぶとくポイント獲得。5位は#3「周平ビートご声援ありがとうございます」



シリーズポイントは3位につける #66

## ■総評

ポイント争いは混戦の様相、#25「ネコマル2」が38P、#225「ぐっちちレーシングチーム」が37P、#66「S.C.C.V」が35Pと僅差の争いで、それに前戦優勝の#81「チームパイオニア」や#3「Red Boo Racing」も3ポイント差にひしめいており上位進出をうかがう。

新規格からミッドシップまで、さまざまなマシンが高いレベルで争うKNCクラスから目が離せない。



少し苦しいレースだったか #3



## KNOクラス（軽NAのオープンクラス）

NAハイチューンエンジンを搭載し、軽量化も許される”改造車クラス”KNO。6台のエントリーがあった開幕戦から比べると、第2戦は2台と少々さびしい。しかしながらその分”常に一騎打ち”という非常に緊迫した戦いが期待できそう。さらに言えばシリーズの流れをつかむためにはリタイヤなど取りこぼしは許されず、その意味でもテンションを高く保つことが要求されるレースとなる。

### ■予選

予選トップは、#23「チームミニトウディ」、開幕戦優勝で勢いに乗る。タイムは1'05.643、全体でも3番グリッドとなる好タイムをたたき出す。予選2番手は#38「デモリッションエグゼトウディ」で、タイムは1'007.206。こちらも全体では6番手というまずまずのタイムを記録。ライバルが前の列に見えるというのはスプリントでなくとも気合が入る。勝負をつけるハイテンションバトルの開幕だ。

### ■序盤

スタートで前に出たのは、#38「デモリッションエグゼトウディ」。一方#23「チームミニトウディ」は黄旗追い越しでドライビングスルーペナルティを課され2位に後退。だがその差はわずかしかない。

### ■中盤

1時間半を過ぎると、ピットストップしている#38「デモリッションエグゼトウディ」をかわし、#23「チームミニトウディ」がトップに立つ。まだこの時点では全く勝負のゆくへはわからない。

### ■終盤

2時間経過時点での周回数は#38「デモリッションエグゼトウディ」が84Lap、#23「チームミニトウディ」は83Lap。#38「デモリッションエグゼトウディ」は総合でも3位となる周回数をマーク。最後のステイントに向かう。

### ■最終結果

結局このタイマンバトルを制したのは、#38「デモリッションエグゼトウディ」、参戦以来の初勝利を一騎打ちでものにした！#23「チームミニトウディ」も終盤追い上げ、終わってみれば1周差！レース中の最速ラップもコンマ33秒差とほとんど差がないまさに僅差のバトルだった。

### ■総評

これでランキングは#23「チームミニ」45P、#38「デモリッションエグゼ」42Pと接近、さらに混戦模様となった。第3戦では大いに盛り上がることを期待したい。



初優勝おめでとう #38



ランキングはトップを守った #23



予選2番手から逆転勝利





さすがチャンピオンチーム #46

## KTCクラス（軽過給機のクローズドクラス）

6台がエントリーのこのクラス。開幕戦を欠場した昨年のチャンピオンチーム#46「カーエナジーワークス」が登場した第2戦、開幕戦で勝利した「開幕野郎」#392「MRTm Zammers ヴィヴィオ」がそれを迎え撃つ構図。

さらに#330「レーシングファン」や#112「白須賀会」といった有力なカプチーノも入り乱れてのバトルが予想されるレース、ウエットでは繊細なドライビングが要求されるFR勢は天候が気になるようだ。

### ■予選

予選トップは昨年王者の#46「カーエナジーワークス」が獲得、1'07.242。2位は#330「SiRiO カプチーノ」1'07.815で横につける。3番手、4番手も続き、3番手#93「藤枝マリンダイビングアルト」1'08.109、4番手#112「白須賀会カプチーノ」となっている。さらにその後ろには5番手、#392「Zammers ヴィヴィオ」1'09.354、さらにその後列に6番手#7「ナルミファクトリーアルト2号車」1'10.327となり総合の中団をKTCが占めている。それは実力が拮抗したことの表れだ。

### ■序盤

まず義務ピット前のスタートから30分は、プチスプリント。予選1番手の#46「カーエナジーワークス」に、予選3番手の#93「藤枝マリンダイビングアルト」、予選2番手の#330「SiRiO カプチーノ」が続きトップ3を形成。

義務ピットがオープンになり、1時間ほどの順位では、トップはそのままだが、2番手には#392「Zammers ヴィヴィオ」があがり、#7「ナルミファクトリーアルト2号車」も4番手に上がる。5位#93「藤枝マリンダイビングアルト」、6位#112「白須賀会カプチーノ」のオーダーで序盤のステイントを消化。

### ■中盤

1時間半を過ぎても、トップは#46「カーエナジーワークス」が64Lapで堅持、2位#392「Zammers ヴィヴィオ」以下に2Lapの差をつける。2位以下は混戦で、3位#330「SiRiO カプチーノ」、4位#93「藤枝マリンダイビングアルト」は同Lap、トップへの挑戦権をかけた2位争いはし烈になる、ここから抜け出すのはどのチームか。

### ■終盤

2時間経過でも#46「カーエナジーワークス」が首位、総合でもトップ争いをするペースで快走、注目の2位争いは#392「Zammers ヴィヴィオ」が#330「SiRiO カプチーノ」に1周差をつけ混戦から抜け出したか。4位#7「ナルミファクトリーアルト2号車」もしぶとくつけ、表彰台の一角を狙う。5位は#112「白須賀会カプチーノ」でこちらもまだまだあきらめてはいない。残念なのは#93「藤枝マリンダイビングアルト」、一時は上位を走る健闘を見せたが、ブレーキトラブルによりマシンを止め、リタイヤに終わった。



こちらもさすが #392 ランキングトップ



有力チームらしくしっかりと表彰台



# Race Report

GT-CAR PRODUCE

## ■最終結果

結局勝ったのは#46「カーエナジーワークス」、予選1番手からスタートし、2位以下に2Lapの差をつけてゴール。さすが昨年2勝をあげタイトルにも輝いているチームらしい強さを見せた。

それに続いたのは#392「Zammers ヴィヴィオ」、こちらも開幕戦優勝の実力を見せ2位表彰台、中盤から終盤の混戦から抜け出すあたりは実に手堅い走り。そして3位は#330「SiRiO カプチーノ」、滑りやすいコンディションの中FRのカプチーノを表彰台まで持ってきて見せた。#7「ナルミファクトリーアルト2号車」もしぶとく走り、3位まであと1Lapに迫ったが、惜しくも4位、次戦に期待。5位は#112「白須賀会カプチーノ」となった。

## ■総評

開幕戦優勝、第2戦は2位と大きくポイントを獲得した#392「Zammers ヴィヴィオ」が45Pとしシリーズの流れをつかんだか。逆にシリーズ2位以下は混戦、#112「白須賀会カプチーノ」と#7「ナルミファクトリーアルト2号車」が30Pで並び、第2戦優勝の#46「カーエナジーワークス」も25Pを獲得し、さすがの実力を示した。過給機に厳しいといわれる真夏の第3戦では、どんな戦いになるのか。



あと一步表彰台には届かず #7



ランキングは2位に浮上 #112





2009年以来の優勝！ #777



こちらは2010年以来の表彰台 #192



ハイパワーFRを乗りこなし表彰台



## KTOクラス（軽過給機のオープンクラス）

総合優勝も狙えるこのクラス、昨年3勝をあげたタイトルに輝いた#210「ZEST ルブロスアルト」が不参加なのは少し残念だが、#32「爆走あばれ馬 DXL ミニカ」や#777「ナルミファクトリーアルト1号車」や#251「MDR スーパーカプチャーノ」といった有力どころが参加、全4台で争われた。

### ■予選

予選トップを獲得したのは#192「DXLメビウスアルトワークス」でタイムは1'04.0778、久しぶりの出場で全体のポールを獲得するあたりはさすが優勝経験のあるチーム。2番手、フロントローに並ぶのは#777「ナルミファクトリーアルト1号車」1'05.643、こちらも久しぶりの優勝を狙うチャンス。

予選3番手は、前戦優勝で波に乗る#32「爆走あばれ馬 DXL ミニカ」で1'06.144、一発のタイムはワークス勢には及ばないものの上位に食い込む強さを発揮。4番手はド派手なオーバーフェンダーが迫力満点の#251「MDR スーパーカプチャーノ」、1'06.733、ハイパワーFRはこれからの天候が心配か。

### ■序盤

序盤のスプリント合戦は、ポールからスタートの#192「DXLメビウスアルトワークス」に、#777「ナルミファクトリーアルト1号車」がピタリつけてトップを狙う。3位#32「爆走あばれ馬 DXL ミニカ」と#251「MDR スーパーカプチャーノ」もその後ろからチャンスをうかがう。

### ■中盤

1時間から1時間半のレース中盤では、#192「DXLメビウスアルトワークス」を筆頭に全体の上位を占め、激しいバトルを展開。1時間半過ぎの周回数では、#192「DXLメビウスアルトワークス」67Lap、#777「ナルミファクトリーアルト1号車」66Lap、#32「爆走あばれ馬 DXL ミニカ」も66Lap、#251「MDR スーパーカプチャーノ」64Lapと、第1スティントを終え、トップから3周差以内に入る混戦模様。いよいよ強くなり始めた雨の中、各チームとも集中したドライビングを続ける。

### ■終盤

2時間経過し、このスティントで首位に立ったのは#777「ナルミファクトリーアルト1号車」、久々の美酒に向け気合のトップ奪取で2位以下に2Lap差をつける。2番手以下は相変わらず混戦、#251「MDR スーパーカプチャーノ」と#192「DXLメビウスアルトワークス」が同Lapで並び、#32「爆走あばれ馬 DXL ミニカ」も1Lapでピタリマークする。#777「ナルミファクトリーアルト1号車」は雨の中でも安定した走り首位を快走、一方ハイパワー&ショートホイールベースの#251「MDR スーパーカプチャーノ」も見事にコントロールされている。いよいよ最後のスティントに向かう全車、どこが抜け出してもおかしくない。

# Race Report

GT-CAR PRODUCE

## ■最終結果

2時間版を過ぎてもトップから最下位までが2Lap差の終盤、ゴールまであと20分を切ろうかというところで、#32「爆走あばれ馬 DXL ミニカ」がスピンコースアウトでセーフティカーの導入となる。

最後セーフティカーのままゴールかとも思われたが、懸命な作業の末ギリギリでグリーンフラッグが振られ最後のバトル。この間しっかりと首位をキープした#777「ナルミファクトリーアルト1号車」が2009年以来の勝利、を見事総合優勝で飾った。2位は#192「DXLメビウスアルトワークス」が入り、こちらは2010年以來の表彰台、3位#251「MDRスーパーカブチーノ」も滑りやすいコンディションの中、表彰台の一角を占めた。#32「爆走あばれ馬 DXL ミニカ」は完走扱いの4位。

## ■総評

この結果ポイント争いで首位に立ったのは#777「ナルミファクトリー」42P、2位は最後残念な結果になってしまった#32「爆走あばれ馬 project」40P、3番手#251「MDレーシング」32Pが上位で、これらを#192「メビウス」や#210「ZEST」が追う展開。

次戦は真夏の3.5H、ハイチューニング過給機を積んだこのクラスには熱との戦いが待っている、しっかりと対策ができたチームがシリーズの主導権を握るに違いない。



最後は残念 #32



じゃんけんで勝ったのはワタシです♪